

## 釣り合いとメリハリのとれたモデル「Dixna J-fit BALANCE」

▶東京サンエスオリジナルハンドルの中で、フレアハンドルの元祖はディズナクロス バンディーシリーズ (2010年) です。またミドルフレアではディズナクロス ニーザーシリーズ (2016年) やヴェノのボーダレス カーボンハンドルバー 2、先日発売開始のカーボンステムハンドル一体型のワンバイエス グランベースもあります。セミフレアではカーボンのワンバイエス グランモンローシリーズ (2014年) やアルミのディズナ ジェイフィットモンロー FZ (2017年) があります。しかし、27°の圧倒的なフレアで設計したのがカーボンのワンバイエス マホラスエヒロ (Vol.29 掲載) です。

▶このマホラ スエヒロは 2020年の発売当初、特異な形状に違和感を抱く方も多く、人気が出始めたのはその2年後辺りからでした。しかも多くの場合は、新しいフレームを体感いただくための試乗車に装着していたことで、フレームより先にこのハンドルすっごく良いですね〜理由がよくわからないですが・・・となったことの積み重ねと昨今のグラベルブームによって人気モデルの仲間入りとなったと思われます。

▶さて今回取り上げる“バランス”は、その“スエヒロ”のアルミバージョンです。きっかけは、多くの一般サイクリストさんのスエヒロをアルミで、と言う要望から。とは言えカーボン成型の自由度からすればアルミでは安全を確保しながら造形の再現は1/10も叶えられ無いと言っても過言ではありません。しかし、何とか可能な範囲で再現することができました。

▶扁平のトップは3°のバックスイープがあり、滑らかな曲線から弊社オリジナルのフィットゾーンを持つ27°のフレア。それにドロップのアウトサイドを若干扁平化させ、スマートなトップ部分は「ジェイフィット モンロー FZ」譲りのフラット仕様です。27°設定の意味は、Vol.29でも触れていますように、3Dモデルを熱して手で曲げて一番しっくりしたのが27°だったということで、オフロード走行でもメリハリのあるしっかりしたポジションを得られる角度域として最良と考えています。加えてアウトサイドの扁平化が脇を自然に締めるように促してくれるので、特に有効になります。

▶3サイズ化したのはスエヒロでの反応の中に、中間サイズにも興味を持たれたことから敢えてブレーキレバー部分を370/390/410mmとし、ドロップ部分は伴って470/490/510mmと、スエヒロ同様に左右50mmづつ広げています。通常のドロップでは400mmをお使いの方が390mmを選択される可能性も多いと考えています。

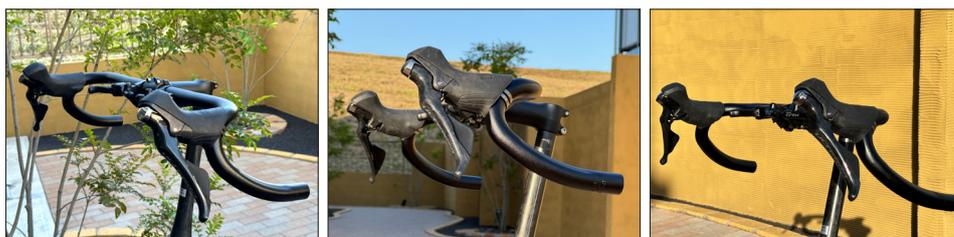
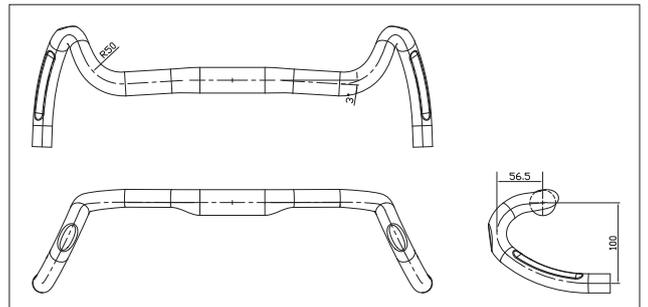
▶バランスの最終図面からは、3°のバックスイープ、R50の緩やかな曲線、56.5mmの超ショートリーチ、100mmのショートドロップ、27°のフレアがよくわかります



▲フレアの大まかな区別として、フレア=20°以上・ミドルフレア=10°台・セミフレア=9°以下と考えています



▲スエヒロとバランスはショルダー部分から殆ど同じライン形成となっています



◀フィットゾーンも有効でドロップ部でのブレーキまでの距離も短く、更にGRXのサブレバーもSサイズ以外は装着可能です

▶モデル名の「BALANCE= バランス」とはまさに釣り合いの取れているモデルであることを意味しています。形状の平衡・オンとオフの均衡・6061-T6 アルミダブルバテッドの強さと価格の不文律・そして何より多くのライダーと自転車に調和すること。それがBALANCEの個性です。



● 次回、月刊サンエスウォッチング Vol.72 は 2024年6月14日(金) の配信予定です。